

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
佐藤 真人			
G (現代ビジネス学科)	S (専門科目)	HC (人間と文化)	103 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	<p>「自己と世界を知るために」というのが授業のメインテーマです。</p> <p>世界には様々な情報が溢れ、その情報を得る手段も昔よりはるかに多様です。しかし、それらの情報が結局は世界を知り、または自己を省みるためのものであることは、昔も今も同じでしょう。ただ、情報はそのままでは知識ではありません。知識とは何でしょうか？ 私たちは結局、何をどのように知ることが可能なのでしょう？</p> <p>本講義では、古代ギリシア以来の哲学者たちが世界と自己を知るためにどのような方法を取り、その成果はどうだったのかを、哲学者のテキストを読みつつ、その思想の背景と共に考えます。西洋哲学の基礎を学ぶことで、現代の私たち自身が知識を探究し、活用するための手がかりを得ること、そしてそれにより、自身で論理的に考えるための力を養うことが最終的な狙いです。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学はどんな学問？ 何の役に立つのか？ 実は誰もがしている「哲学」とは、どういう営みで、何をめざすものなのかについて、西洋哲学の例から</li> <li>2. 世界を知る試みはどう始まったのか？ 古代ギリシアでの哲学の夜明け</li> <li>3. 私たちは何を知っていると言えるだろう？ プラトン① 「不知の知」と魂の世話について</li> <li>4. 「<math>2 + 3 = 5</math>」や「花は美しい」と、なぜ言えるのだろうか？ プラトン② 想起と善のアイデアについて</li> <li>5. どうすれば体系的な知識を得られるか？ アリストテレス① 論理学と論証</li> <li>6. 世界はどのようにできているのか？ アリストテレス② 原因と運動変化の探究</li> <li>7. 知識を正確に表すには？ ストア派のこぼの学</li> <li>8. 絶対に確かな真理はあるのか？ 判断の保留と懐疑主義の脅威</li> <li>9. 私とは何ものか？ アウグスティヌスと「魂の広がり」</li> <li>10. 神の存在を証明できる？ トマス・アクィナスの論証の力</li> <li>11. 絶対に確実な真理はあるのか？ デカルト① 方法としての懐疑、考えるものとしての私</li> <li>12. 哲学は何の役に立つのか？ デカルト② 哲学の実践と効能</li> <li>13. 私は何のためにいるのだろうか？ パスカルと「憎むべき『私』」</li> <li>14. 自由意志などない？ スピノザの機械的自然と心身の並行</li> <li>15. あなたも私も一つの世界 ライプニッツの「モナド」と世界の表現</li> </ol>
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商学部の以下DPを意識した科目です。 2) 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</li> <li>・現代ビジネス学科の以下DPを意識した科目です。 2) 基礎的知識を身に付けており、学んだことを発信できる能力を身に付けている</li> <li>・アカデミック群の以下DPを意識した科目です。 1) 生涯にわたって学び続ける姿勢を身に付けている 2) グローバルな視野と多様な価値観を尊重する姿勢を身に付けている 3) 幅広い教養に基づいた創造的思考力と、課題解決力を身に付けている</li> <li>・特に身につくスキル 主体性、表現力、論理的思考力、グローバルな視野、学び続ける姿勢</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 知識とは何か、「知る」とはどういうことかについて、西洋の哲学者たちがとってきた方法を理解する。</li> <li>2) 過去の哲学の歩みから、現代の私たちが何をどのように知ることが可能なのか、知識によってどういうことが可能になるのかを考える。</li> <li>3) 授業を通じて学び、考えたことを自分のことばで論理的に表現する。</li> </ol>

課題や小テスト等のフィードバックの方法	課題や小テスト等は、注意点等を記入して返却します。
履修上の注意	4回以上の欠席で不可としますので注意してください（事情がある場合は相談してください）。また、著しい遅刻や私語など、学習姿勢の問題に改善がみられない場合は、退室していただくことがあります。
成績評価の方法・基準	試験（またはレポート）65%、平常点（小テスト込）25%、学習意欲10%の割合で評価します。発言・質問・リアクションペーパー等は加点の対象にはなりますが、減点は基本的にはしません（授業の妨げとなるような行為がない限り）。
教科書	ありません。オリジナルの資料を使い、都度テキストを配布予定です。
参考書・教材	毎回の授業で都度明示します。全般的な参考書としては以下を勧めます。 『哲学の歴史』、全12巻+別巻、中央公論新社、2007年～2008年 野家啓一ほか編、『新・哲学講義』、岩波書店、1～5巻、1998～1999年 伊藤邦武著、『物語 哲学の歴史』、中公新書、2012年 トマス・ネーゲル、『哲学ってどんなこと？ - とっても短い哲学入門 - 』、昭和堂、1993年 土屋賢二、『ツチヤ教授の哲学講義 哲学で何がわかるか？』、文春文庫、2011年
備考	哲学は人間の営みのほぼ全域をカバーしてきたものですから、幅広くおもしろいものですが、受け身で聞き流すだけでは、身につくのが困難です。 ぜひ自分でテキストを読み、内容について考え、それを自分の言葉で書いて説明するようにしてください。そうすれば、単に哲学という一分野の学問について学ぶだけでなく、論理的な思考と表現の方法が自然と身についていくことでしょう。 提出したものは注意点等を記入して返却します。
教員との連絡方法	講義後やメール（別途連絡）でお願いします。